

# 更級への旅

松尾芭蕉が歩いた 更科紀行街道の今・その9

鏡台山から昇る「中秋の名月」を  
ついに見る事ができました。背景  
の空はくつきり晴れ、まんまるお月  
さん。左の写真はJR姨捨駅で千曲  
市羽尾地区(旧更級村)在住の森政  
教さんがその瞬間を撮影したもの  
です。ことしの中秋、十月三日に同  
駅ホームで開いた「まんが松尾芭蕉  
の更科紀行」著者であるすずき大和  
さんのトークショーが始まってま  
もなく、午後五時三十分ごろでした。

## ▽棚田バンド

鏡台山はシリーズ99で書きまし  
たように、北と南の峯からなり、中  
秋の月はその間の少し凹んだところ  
から上るのですが、森さんの写  
真を見るとそれがよく分かります。  
右側、南の一番高い所が南の峯で  
すこし切れ込んだ部分が見晴らし  
台として整備されたところ。北  
峯は平坦になっており、ここで大正  
時代に運動会が行われたことも納  
得できる感じです。

顔を出したお月さんは、まだ日が  
残っているため餅のように白く淡  
く、上空に上がるにつれ闇も濃く  
なって黄色を増していきます。しば  
らくすると、薄い雲にかかりました。



細かい雲の帯に透けて見える月も風情  
があります。さらに上空に行くくと  
徐々に雲に隠れ姿を消す場面もあり  
ました。手前の千曲川や善光寺平の  
夜景がスパイスになり、お月さんを  
フルコースで味わった感じでした。  
今回のトークショーを、情感豊か  
に盛り上げてくださったのは「棚田  
バンド」(左中段の写真)です。棚

## JR姨捨駅で名月のフルコース



田バンドとは、シリーズ61で紹介し  
た「更級人『風月の会』」のフォー  
クソング愛好家のみなさんと、鏡台  
山の月を撮影した森さんもメンバー  
です(写真中央)。姨捨駅を管轄す  
る篠ノ井駅長の竹川清登さんとJR  
長野支社が今回のイベントに合わ  
せ、お月見列車「さらしな・おぼす  
て芭蕉号」を長野駅から運行して  
くださることになったので、「さらし  
な」の里ここにあり・姨捨駅編」を作  
り、それを到着後の歓迎歌としてみ  
なさんに披露してくれました。お月  
さんが顔を出したのは、そのすこし  
後でした。

## ▽すずき大和さんが当地で芭蕉が大泣きした理由や、「姨捨」は年を取ると抱きがちな悲観的な気持ちを捨てる場、つまり「若返りの里」であると話した後は、ザ・フォーク・クルセダーズの「あの素晴しい愛をもう一度」などを披露、最後は長野県歌「信濃の国」を、楽器の演奏がない素の声によるアカペラで歌いました。一番の歌詞にある「善光寺平」と四番に登場する「詩歌に詠みてぞ伝えたる」「姨捨山」の箇所は特に心にしみました。音響に詳しい湯原敏光さんが機器を多数用意し、姨捨駅と周辺を神秘的な空間に演出するのに力を貸してくださいました。

## ▽晴れ男に晴れ女

それにしてもこの月を見ることが

できたのは幸運でした。一週間前の天気予報では雨マーク。雨降りを前提に、「雨降りお月さん」(野口雨情作詞)の歌を急ぎよ、棚田バンドに歌ってくださるようお願いしていました。「さらしな・姨捨」には「十五夜のよいおしめりよよい月夜」という俳人、小林一茶の句があるほど雨振りでも古人は楽し

## さらしなの里ここにあり―姨捨駅編

作詞・大谷善邦  
作曲・森政教

- 一、 平安人のあこがれは  
さらしな・姨捨・月の都  
そなたの感激 今もなお  
さらしなの里ここにあり
- 二、 美濃を旅立った芭蕉さん  
姨岩に立って母恋し  
そなたの涙 なお熱く  
さらしなの里ここにあり
- 三、 姨捨駅が大好きな  
お月見列車の風雅な  
みんなの情熱 永久にあり  
さらしなの里ここにあり

んだことなど、雨もまた一興であることを紹介するため勉強していました。

しかし、二日前には晴れマーク、しかも快晴、夕刻以降は星空マークです。それでもやはり心配です。自分が晴れ男であることを実績を踏まえて強調し、それも理由に東京から参加を表明してくださいる方もいらっしやいました。当日は、ほかに自分が晴れ男であること、を自慢する人がいましたが、この夜、姨捨駅に集まった人たちは全員、今後自分が「晴れ男」「晴れ女」であるといえる資格を得たかもしれませぬ。

月が現れる時刻は信濃毎日新聞の天気予報欄にある「月の出」時刻を参考にしました。月の出は毎日二十五分ほど遅れ、十月三日の時点は長野市からの観測で午後五時六分とありました。観測地の標高や向かいの山の標高により、少しずつ時刻にずれがあり、姨捨駅からは午後五時三十分ごろになったわけです。

翌日の四日は十六夜、すずき大和さんと戸倉上山田温泉の千曲川堤防で月の出を待ちました。姨捨駅では二十五分遅れて午後五時半ごろなのですが、なかなか上がりません、あたりはすっきり晴れ、午後六時をすぎると、五里ヶ峯に続く山の端が黄色くなり始めました。十分ごろには黄金色の月が現れました。目の前には上がるので、とても大きく明るさは見つめるのが難しいほどでした。千曲川の水面には月明かりが反射し、月と水の相性の良さを実感しました。

松尾芭蕉が当地を訪ねたのは三百二十一年前。「更科紀行」には、随行した越人の「さらしなや三夜さの月見雲もなし」の句を載せています。すずき大和さんが「まんが松尾芭蕉の更科紀行」で描き出した「さらしな・姨捨」の月の真の魅力と、芭蕉を感激させた当地での月見体験の醍醐味が分かった気がしました。

今回のトークショーにご協力いただいたのはほかに、栗の故郷推進委員会、千曲市川西地区振興連絡協議会、屋代西沢書店、楽知会、地元物産店、姨捨駅のポアランティ清掃をしている方、さらしなの里歴史資料館、千曲市役所、更級人「風月の会」などです。心より御礼申し上げます。

発行 二〇〇九年十月十八日  
編集 さらしな堂  
(代表・大谷善邦)  
〒三八九・〇八二三  
長野県千曲市大字若宮二一八四・六  
(旧更級郡更級村)